

# 富士通エレクトロニクスの買収(子会社化)について

2018年9月18日  
加賀電子株式会社  
代表取締役社長 門 良一

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を四捨五入

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

# 加賀電子グループ 中期経営計画骨子

## 基本方針

- (1) 収益基盤の強化
- (2) 新規事業の創出
- (3) 経営基盤の強化

## 経営目標 (2019年3月期)

売上高 …………… **2,900億円**  
経常利益 …………… **100億円**  
ROE …………… **8%以上**

## 中長期ビジョン

- 利益重視経営の確立
- “次世代の加賀電子”として飛躍の準備
- わが国業界No.1の実現、そして  
世界に通用する企業として持続的成長を狙う

## 成長戦略：5つの重点テーマ

EMSビジネス	・ 事業規模拡大に向けて <b>海外拠点を拡充</b>
車載	・ <b>ADAS、DMS</b> の新技术・市場ニーズへの対応 ・ <b>ハイブリッド車、電気自動車シフト</b> への対応
通信（IoT）	・ <b>LPWA</b> 市場開拓と <b>AI</b> を活用したクラウドビジネスの創出
<b>M&amp;A推進</b>	・ <b>業界再編</b> を見据えて <b>グループ経営基盤・収益基盤を強化</b>
ベンチャー投資	・ <b>50億円/3年</b> でベンチャー企業・事業への投資活動を開始

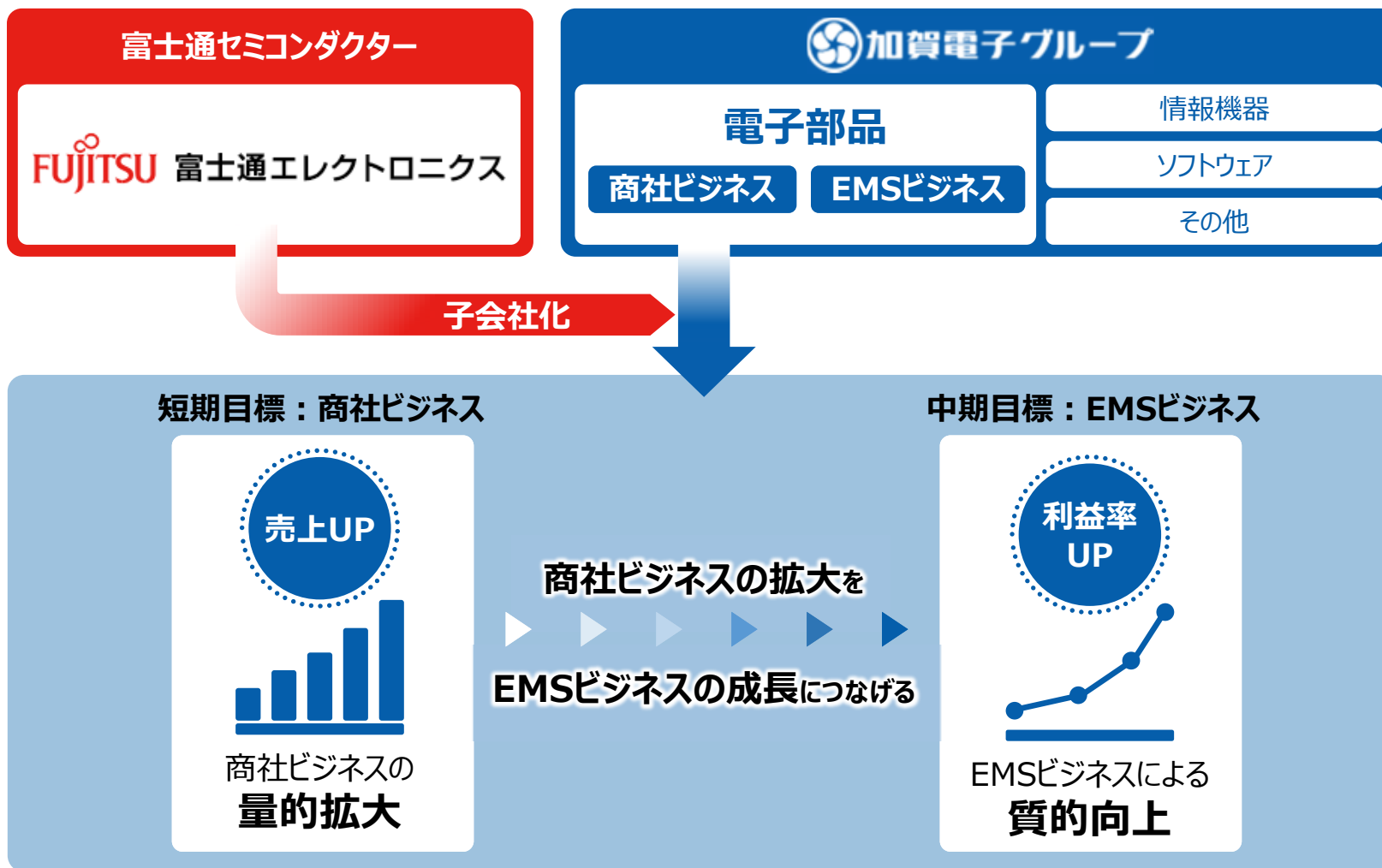
## 本件買収の概要

スキーム	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 富士通セミコンダクターより<b>富士通エレクトロニクス株式70%を取得し子会社化。今後、段階的に取得し2022年1月に完全子会社化</b></li></ul>
取得価格	<ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>総額205億円</b>（見込総額、アドバイザー費用等含む）</li></ul>
資金調達	<ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>自己資金</b>及び新規の<b>ブリッジローン</b>により調達予定</li><li>・ 本ブリッジローンについては、様々な長期資金の調達へと切替えを検討</li></ul>
財務への影響	<ul style="list-style-type: none"><li>・ のれん計上額、無形固定資産償却等は買収完了後に公表予定</li><li>・ 但し、買収価額≒純資産であり、<b>影響額は軽微な水準と見込む</b></li></ul>
株式譲渡 実行の予定	<ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>第一段階：2019年1月（70%）</b></li><li>・ 第二段階：2020年12月（15%）</li><li>・ 第三段階：2021年12月（15%）</li></ul>

- ・ 各段階における取得価額は、富士通エレクトロニクスの連結純資産額の変動等を調整した金額となる予定であり、上記取得価額は現時点における見込総額を記載しております。
- ・ 本株式取得は、国内外における競争法に基づく関係当局の承認等を条件としております。
- ・ 当社の当期（2019年3月期）連結業績に与える影響については、確定後に改めてお知らせいたします。

# 本件買収の目的

- 中核をなす電子部品の事業規模を非連続に拡大、“業界No.1企業”の実現へ



# 本件買収の狙い

## 狙い **1**



取扱い商材の拡大、  
顧客基盤の共有により、

**我が国業界**

**No.1**

の企業グループを形成

## 狙い **2**



まずは商社ビジネスから  
入ってEMSへ展開、

**利益額の拡大と**

**利益率の向上**

を実現

## 狙い **3**



本件買収を足場に、  
グローバル競争に勝ち残る

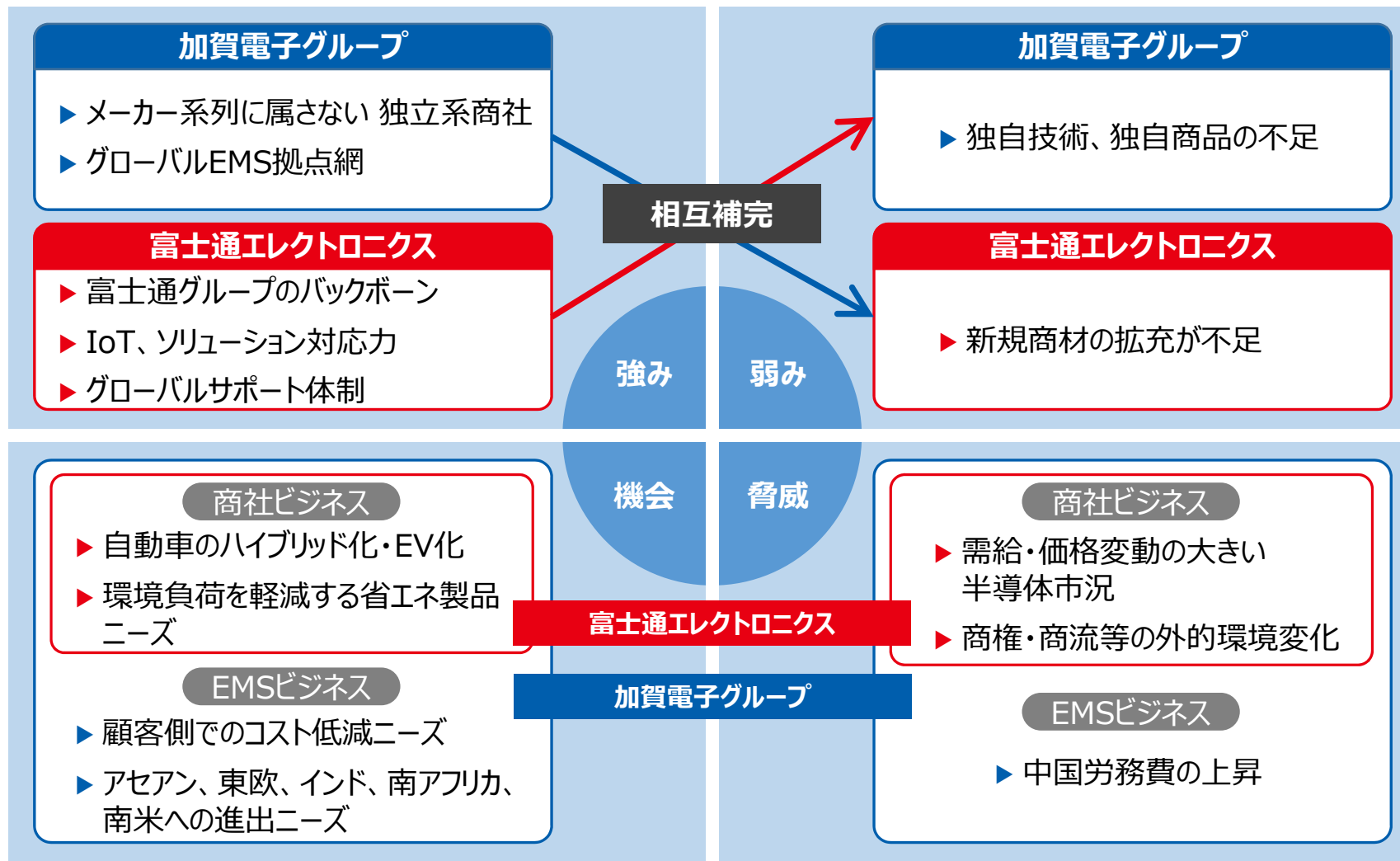
**世界に**

**通用する企業**

を目指す

# 本件買収のSWOT分析

## ● 双方の強みで弱みを補完、買収シナジーで収益機会の最大化を目指す





## 本件買収後の業界内ポジショニング（2018年3月期実績）

- 業界トップクラス、5,000億円級の企業グループ誕生。更なる業界再編の核に

【エレクトロニクス商社 売上高上位10社】

順位	社名	売上高
1	マクニカ・富士エレ	5,041
2	丸文	3,475
3	UKCホールディングス	3,014
4	<b>富士通エレクトロニクス</b>	<b>2,587</b>
5	リョーサン	2,541
6	菱電商事	2,365
7	<b>加賀電子</b>	<b>2,359</b>
8	シークス	2,332
9	トーメンデバイス	1,976
10	エレマテック	1,962

【買収後 売上高上位5社】

(単位：億円)

順位	社名	売上高
1	マクニカ・富士エレ	5,041
2	<b>加賀電子 + 富士通エレクトロニクス</b>	<b>4,946</b>
3	丸文	3,475
4	UKCホールディングス	3,014
5	リョーサン	2,541

注：「加賀電子+富士通エレクトロニクス」は、単純合算ベース  
 シークスは、2017年12月期  
 上表は、富士通エレクトロニクス以外は上場企業を対象としています  
 ※データの出所：当社調べ

## (参考) 専門商社売上高ランキング (2018年3月期実績)

### ● “5,000億円～兆円級” : メガ競争を勝ち抜く業界トップ企業の必要条件

(単位: 億円)

順位	社名	売上高	順位	社名	売上高
<b>【医薬品卸】</b>			<b>【鉄鋼・金属製品卸】</b>		
1	メディパルHD	31,463	△ 1	伊藤忠丸紅鉄鋼	21,523
2	スズケン	21,240	△ 2	メタルワン	21,180
3	アルフレッサ	20,675	3	日鉄住金物産	20,623
4	東邦HD	12,133	4	阪和興業	17,911
5	バイタルケーエスケーHD	5,655	△ 5	JFE商事	12,793
<b>【食料品卸】</b>			<b>【繊維・衣料品卸】</b>		
△ 1	日本アクセス	21,374	△ 1	東レインターナショナル	5,877
△ 2	国分グループ本社	18,797	2	蝶理	3,177
3	加藤産業	9,738	△ 3	ワールド	2,458
4	コカ・コーラボトラーズジャパン	8,726	4	オンワード樫山	2,430
△ 5	三井食品	8,164	△ 5	帝人フロンティア	2,156

注: 国分グループ本社、コカ・コーラボトラーズジャパンは2017年12月期  
豊島は2017年6月期、オンワード樫山は2018年2月期

△印は、非上場企業

※データの出所: 当社調べ

## 富士通エレクトロニクスの概要

名称	・ 富士通エレクトロニクス株式会社
代表者	・ 代表取締役社長 荻原 淳二
所在地	・ 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-100-45 新横浜中央ビル
沿革	・ 1952年: 平山電機商事株式会社として設立 ・ 1968年: 富士通株式会社が経営参加 ・ 2008年: 富士通セミコンダクター株式会社が完全子会社化
事業内容	・ 電子デバイス製品の設計・開発及び販売

- ・ 2019年1月の70%株式取得後は、当社から塚本勲（現代表取締役会長）が、同社の代表取締役会長に就任する予定です。

# 富士通エレクトロニクスの事業内容・最近の業績

## ● グローバルなエレクトロニクス・ソリューション・プロバイダーを目指す

### デバイス ソリューション

富士通セミコン製品に加え、  
世界中の高品質、  
高性能な最先端デバイスを  
ラインアップ

### IoT ソリューション

富士通グループの  
IoTサービスを中心としたAI  
やプラットフォームでお客様  
のビジネスを支援

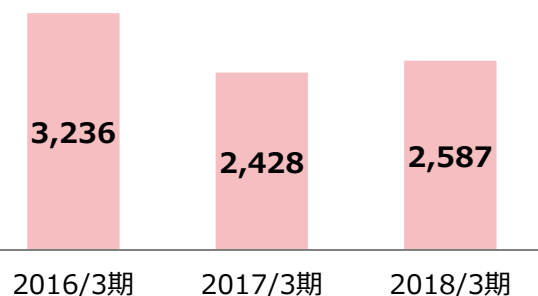
### オリジナル製品・ サービス

最適なハード、ソフトを開発・  
設計から量産までワンストップ  
でお客様に提供

## FUJITSU 富士通エレクトロニクス

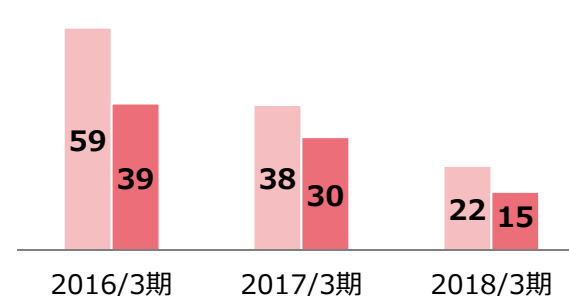
### 連結売上高

(単位：億円)



### 連結経常利益・当期利益

(単位：億円)



## 富士通エレクトロニクス・グループの強み

- 富士通エレクトロニクス・グループは、以下を強みとした事業展開を図っています



富士通エレクトロニクス  
の  
コア



# 富士通エレクトロニクスの目指す事業の方向性

## ● ①外部商材の拡充、②ソリューションの拡充、および③海外展開の強化による事業拡大を目指しています

### 1. 外部商材の拡充

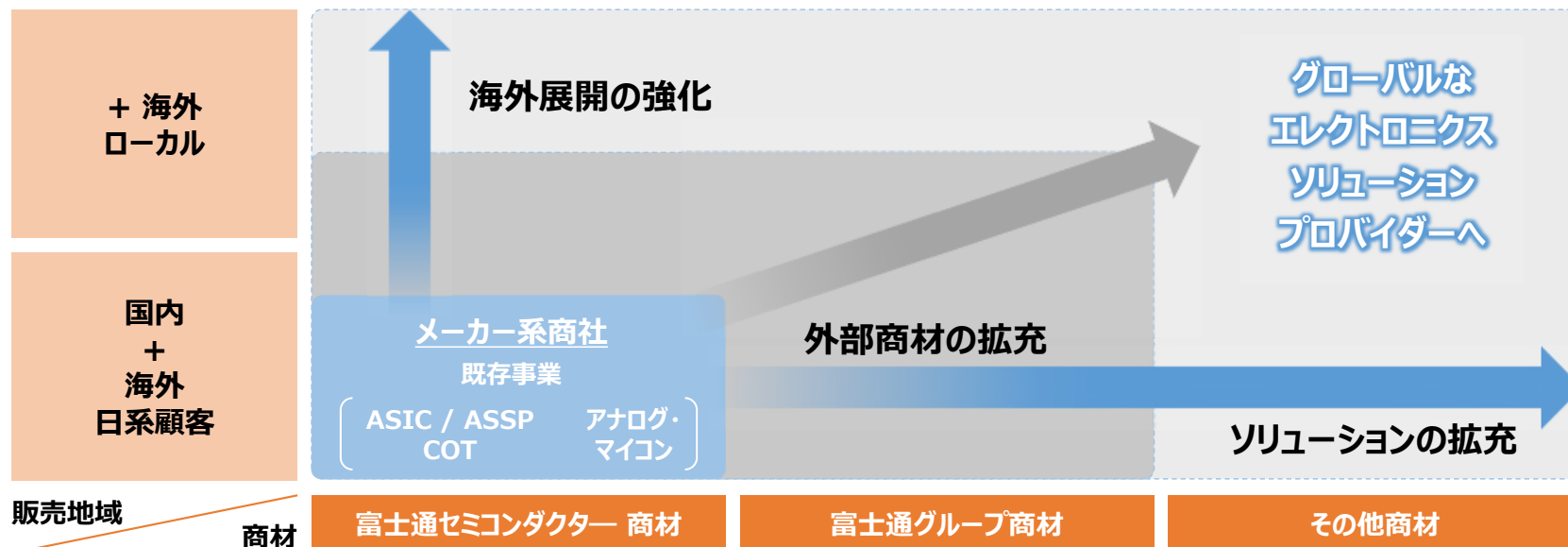
- グローバルレベルでの取扱商材拡大

### 2. ソリューション技術力の強化を通じた顧客への付加価値提供

- 社内外の最適な技術及び商材を組み合わせたソリューションの提供
- 富士通グループ内リソース活用（開発、製造系会社との連携）

### 3. 海外拠点を活かしたグローバル展開の加速

- 海外日系顧客+海外ローカル顧客の積極的開拓
- グローバル・サプライチェーンの強化



メーカー系半導体商社から、グローバルなエレクトロニクス・ソリューション・プロバイダーへ事業拡大を目指す

<memo>

.....

.....

.....

.....

.....

.....

『すべてはお客様のために』



問合せ先：IR・広報室

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地

TEL:03-5657-0106

FAX:03-3254-7133

E-mail : [webmaster@taxan.co.jp](mailto:webmaster@taxan.co.jp)

<https://www.taxan.co.jp>